

日本教育メディア学会

# 学 会 通 信 第 45 号

学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaems/>

2008年5月31日発行

事務局

〒184-8501

東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学教育学研究室内

電話:042-329-7344

E-mail:shijaems@u-gakugei.ac.jp

## 第15回日本教育メディア学会年次大会の開催にあたって

大会準備委員長 大西 誠

来る平成20年10月18日(土)と19日(日)の2日間、第15回日本教育メディア学会の年次大会が、愛知県長久手町にある愛知淑徳大学長久手キャンパスを会場に開催されます。

愛知県および東海北陸にお住まいの大学や社会教育等関係機関に所属する会員の方々の協力とご支援を受けて準備委員会を設置し、開催に向けて準備を進めております。まだ準備段階ですので、詳しいスケジュール等は確定しておりませんが、今大会では、「自由研究」に加え、下記のような「ワークショップ」「シンポジウム」「課題研究」を企画しています。

ワークショップ	「映像による効果的なプレゼンテーション～授業における新活用法～」
シンポジウム	「市民とメディア～メディアリテラシーと情報発信～」
課題研究I	「デジタル時代の放送教育」
課題研究II	「デジタル時代における映像教材の教育的利用の在り方と利用観点の明確化」
課題研究III	「映像教育と制作実習」
課題研究IV	「国際協力、国際理解のための教育メディア活用」

このうち「ワークショップ」と「シンポジウム」は公開とし、本学会員に加え、会員外のどなたでも参加できるようにしています。「ワークショップ」では教職員、学生を対象としてコンピュータなどを活用しますので、お近くの非会員の教職員、学生の方たちにお知らせ、お誘い願えれば幸いです。

なお、本学は星ヶ丘キャンパスと長久手キャンパスの二つに別れており、大会会場となる長久手キャンパスは、名古屋の都心からやや離れて位置しているため、名古屋駅からは地下鉄、市バスを乗り継いでお出でいただくこととなります。しかし、セントラルジャパンといわれるように、名古屋は全国どこからも、飛行機、新幹線、高速道路でアクセスの便利な場所です。また会場は名古屋駅から1時間以内の場所にあることから、たくさんの参加者が期待されます。

駅前のセントラルタワーズ、ミッドランドスクウェア、スパイラルタワーズなど高層ビルで元気な名古屋にいらしてください。

また企業の方にご協力いただき、最新の教育機器や教材の「展示」も企画しております。「自由研究」以外に、特別に研究を紹介したいという方たちのために、パネル展示ができる「ポスターセッション」も考えております。幅広い方々からの研究発表のご応募やご参加をお待ちしております。

## 第 15 回 日本教育メディア学会年次大会

### I. 開催期日・会場等

期日： 平成 20 年 10 月 18 日（土）、19 日（日）

会場：愛知県愛知郡長久手町

- ① 研究発表： 愛知淑徳大学長久手キャンパス2号棟・3号棟（長久手町長湫片平9）
- ② 懇親会： 同キャンパス・緑風館（長久手町長湫片平9）

主催：日本教育メディア学会

### II. 大会日程

	時間	プログラム	会場
1 日目（10/18）	（詳細未定）	ワークショップ	未定
	（詳細未定）	討議	
	12:00～ 13:30	昼食・受付	
	13:30～ 15:30	自由研究	2 号棟
	15:45～ 17:30	課題研究 I, II	
	18:00～ 20:00	懇親会	緑風館
2 日目（10/19）	8:30～	受付	
	9:00～ 11:30	自由研究	2 号棟
	11:30～ 12:30	昼食	
	12:30～ 13:10	総会	EC ホール
	13:20～ 14:50	シンポジウム	
	15:00～ 16:30	課題研究 III, IV	2 号棟

大会の日程等は、発表申し込み件数等によって変更がありますので、詳細な日程等はプログラムとともに、次号で、ご案内します。

なお、大会前日の 10 月 17 日（金）午後 4 時から午後 6 時に学会編集委員会を、同午後 6 時から午後 8 時に理事会を、それぞれ開催します。関係者には、会場を含めて、別途ご連絡いたします。

### Ⅲ. 大会プログラムの概要

#### 1. 公開ワークショップ

##### 「映像による効果的なプレゼンテーション～授業における新活用法～」

(コーディネータ：小田茂一)

デジタル化の進展により、映像コンテンツの活用は以前にも増して便利で効果的なものとなっている。授業で映像素材を活用していく新たな工夫は、どのようにおこなわれているのか。また、教師の役割はどのように変化しているのか。NHK学校放送番組のデジタル素材を活用しての具体事例などを通して、ワークショップ形式により学びたい。デジタル映像素材を選ぶところからPCを通じてそのコンテンツを共有しながら考えていくプロセスを、将来教職に就こうとしている大学生をも対象に含めながら、教師による効果的な教育メディアの活用事例として検討していく。

#### 2. 公開シンポジウム

##### 「市民とメディア-メディアリテラシーと情報発信-」

(コーディネータ：大西 誠)

テレビ局の不祥事続きの影響で、テレビに対する信頼感が揺らいでいる。一方、インターネットを使ったさまざまな犯罪が起きるなどメディアを取り巻く状況は、必ずしも良いとは言えない。またメディアの送り手と受け手の関係も変化している。最近では、ケーブルテレビやインターネットなどを通じた一般市民からの情報発信も活発になってきている。メディアの理解から利用の仕方までメディアリテラシーは、学校、研究の場に留まらず、市民とともに考えて行かなければならない課題となっている。市民にとってメディアとは何か、市民と教育現場との関わりはどうあるべきかなど、さまざまな観点からメディアリテラシーを討論する。

#### 3. 課題研究（公募）

##### 【課題研究Ⅰ】 デジタル時代の放送教育 (コーディネータ：岡部昌樹・村井万寿夫)

NHK 学校放送に代表されるデジタル教材は、番組や映像作品を一斉視聴した後、個々が再確認・定着、深化・発展の目的に応じてパソコンで自学するという思想で設計されているが、最近は一斉視聴による利用も増えている。それは、プロジェクターやデジタルハイビジョンテレビが教室に普及するに伴ってパソコンの画面を大きなモニターで投影することができるようになったからである。しかし、NHK デジタル教材はホームページ上のクリップを事前にダウンロードして使用することができないため、そのつどインターネットにつなげて提示しなければならない。動画クリップ数が増える傾向にある中で、検索に時間がかかるという問題も生じている。開発者側と利用者側から問題を整理し、デジタル時代の放送教育の方途を探りたい。

##### 【課題研究Ⅱ】 デジタル時代における映像教材の教育的利用の在り方と利用観点の明確化

(コーディネータ：大河原清)

学習者に映像教材の視聴を通して、教師は教育目標をどのように達成しようとしているのか。あえて映像教材を使用する必要性はあるのか。デジタル放送の開始にともなう豊富なテレビ番組の利用ならびに個人が容易に映像教材をパソコン上で編集と自作ができる状況を踏まえ、改めて映像教材の教育的利用の在り方と教育的利用の観点を明らかにする発表を求める。古くは、一枚の写真や幻燈における静止画の作成と利用に始まり、映画のたとえば発芽や天体の動きに見られる動画特有の利用があった。学校放送テレビ番組、商業用テレビ番組や映画、そして自作映像の教室場面での利用の在り方とその利用方法や作成の観点について、改めて問い直すことで、今後の映像教材の教育的利用の在り方を提案して頂きたい。

### 【課題研究Ⅲ】 映像教育と制作実習

(コーディネータ：市川昌、坂元多)

情報通信技術 (ICT) の発展に伴い、学校の ICT 環境が充実してきた。これまでの教室という枠の中での学習から、教室の枠を飛び出し外の世界とつながる学習ができるようになった。川の上流と下流の学校を結んだり、お米をテーマにした調べ学習など複数の学校が協力し合い学習を進めたりする活動が盛んになった。また、海外の学校との交流もテレビ会議やウェブを活用して活発化している。しかし、まだ ICT を活用した交流学习は始まったばかりであり、そのノウハウは十分に蓄積されているとはいえない。教育メディアを活用した交流学习の学習方法やカリキュラムはどうあるべきか、理論と実践の両面から考えたい。

### 【課題研究Ⅳ】 国際協力、国際理解のための教育メディア活用

(コーディネータ：久保田賢一)

多くの国際協力プロジェクトにおいて、教育や広報のためのメディアが利用され効果を発揮している。国際理解のための教育においても、外国人が参加する対面型の学習に加え、テレビ会議、電子メールなどのメディアを使い海外とのコミュニケーションに役立っている。本課題研究では、主に海外とのコミュニケーションや海外での教育活動に使われるメディアに焦点を当て、その可能性と問題点について幅広く考察をしていく。

## IV. 研究発表（課題研究・自由研究〈口頭及びポスター〉）について

### 1. 発表者の要件

- ・発表者（登壇者。ポスターセッションでは説明者）は会員であることが必須です。発表申込時点までに本学会への入会手続きを済ませてください。なお、入会申込書は学会ホームページからダウンロードしてください。（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaems/>）
- ・会員1名が発表できる件数は、課題研究1件、自由研究（口頭またはポスター）1件、計2件までとします。

### 2. 発表申込期限

平成20年8月8日（金）必着（厳守）

同封の用紙に必要事項を記入の上、電子メール（または郵送）により、大会事務局あてに提出してください。申込後の内容の変更（発表題目、発表者等）は原則として認めませんのでご了承ください。

### 3. 原稿送付期限

平成20年9月1日（月）必着（厳守）

原稿枚数、書式をご確認の上、電子メール（または郵送）により大会事務局あてに提出してください。

### 4. 提出原稿の書式・枚数

#### （1）原稿の書式

別紙、「学会研究会等発表論文集原稿執筆例」を参照の上、原稿を作成してください。PDFファイル形式での原稿提出をお願いします。PDFファイル形式で提出できない場合は、原稿が汚損しないような形でお送りください。

#### （2）原稿の枚数

課題研究はA4版用紙×4枚、自由研究（口頭発表及びポスターセッション）はA4版用紙×2枚とします。

## 5. 発表時間

自由研究（口頭発表）の発表時間は1件あたり30分（発表20分、質疑8分、交代2分）を予定しています（発表件数等によって時間が短縮等されることがあります）。

## 6. 発表用機材

各会場に、MS Office XP がインストールされた Windows パソコンとプロジェクタを用意します。利用可能な媒体は、USB メモリ、CD、フロッピーディスクです。また、ポスターセッションのパネルは1件当たり畳1畳程度のスペースを準備します。これ以外の機材、ソフト等を使用する場合及びハンドアウトなど配布資料は、各自でご準備ください。

## V. 大会への参加について

### 1. 参加申込票の提出

同封の用紙（大会ホームページからダウンロードもできます）に必要事項を記入の上、9月1日（月）までに電子メール（または郵送）により大会事務局あてに提出してください。

### 2. 大会参加費

大会参加費は、同封の払込用紙に必要事項を記入の上、9月1日（月）までに払い込みください。払込手数料は各自負担をお願いします。紛失されたときは、郵便局に備え付けの用紙で払い込みください。大会参加費及び払い込み先は下記の通りです。

なお、同封の「払込取扱票」では、学会年会費の納入はできませんのでご了承ください。

<参加費>

区分	当日（発表論文集代を含む）	事前振込（9月1日（月）まで）
一般会員	5,500円	5,000円*
学生会員	3,500円	3,000円*
一般参加者 （非会員）	4,000円	

\*「事前」とは、事前申込者に対する割引特典のことで、9月1日（月）までに払い込みを完了した会員のみが対象となります。

<払い込み先>

口座番号 00870-9-187710 加入者名 第15回日本教育メディア学会年次大会事務局 通信欄 大会参加費、懇親会費の内訳、及び参加者の氏名・所属を記入してください。
--

### 3. 発表論文集

1冊 2,500円（会場にて手渡します）

会場に来られない場合は、別途送料500円にてお送りします。

## VI. 大会事務局及び紹介先

発表申込、発表論文集原稿提出、参加申込は、下記の大会事務局にて受け付けます。

〒480-1197 愛知郡長久手町長湫片平9 愛知淑徳大学現代社会学部（大西研究室） 第15回日本教育メディア学会年次大会事務局 電子メール： jaems08@asu.aasa.ac.jp（7月1日～9月1日まで限定）
--

なお、会場担当校へのお問い合わせ先は次の通りです。

愛知淑徳大学現代社会学部（大西研究室）  
〒480-1197 愛知郡長久手町長湫片平9  
電話：0561-62-4111 内線 2488（大西研究室）、  
内線 2467（小田研究室）、内線 2485（坂元研究室）  
電子メール：onishim@asu.aasa.ac.jp

## Ⅶ. その他の情報

### 1. 懇親会

大会第1日目の夜に、会場内の食堂で懇親会を予定しております。多くの皆様の参加をお待ちしております。

日時： 10月18日（土）18:00～20:00

場所： 愛知淑徳大学長久手キャンパス・緑風館

会費： 4,500円

### 2. 大会期間中の昼食・宿泊等について

#### (1) 昼食

大会会場は市街地から離れていることもあり、会場周辺にはレストラン等は多くなく、ご不便をおかけしますが、予めご了承ください。なお会場にてお弁当の販売をいたしますので、事前ご予約をお願いします。また近隣にコンビニもございますので、ご利用ください。

#### (2) 宿泊等

宿泊の手配は各自でお願いします。なお下記の旅行社では、みなさまからのお問い合わせに対応しています。

○問い合わせ先 名鉄観光サービス・名古屋中央支店

○住所：〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-2-28 名古屋第二埼玉ビル

○営業時間 9:00～18:00【土・日・祝日休み】（担当：吉野・加藤・長尾）

○TEL：052-586-4545 FAX：052-586-4050

○Email: takashi.yoshino@mwt.co.jp

### 3. 会場までのアクセス

本大学のホームページ <http://www.aasa.ac.jp/> をご覧ください。

（バスの時間等について、次号の通信でご案内します）

## §

### ◇ 平成20年度常任理事会記録（抄） ◇

日時：平成20年4月12日（土）午後3時から午後5時

場所：新潟大学東京事務所6階会議室（東京都港区） 03-5440-9081

出席：理事11名、事務局員1名

審議事項等

#### 1. 第15回日本教育メディア学会年次大会（愛知淑徳大学）

シンポジウム、課題研究等について、協議が行われ、テーマ（案）とコーディネーターが決定された。このテーマ（案）をコーディネーターがさらに勘案し、決定することになった。

#### 2. 日本視聴覚教育協会・井内賞規定案について協議された。

3. 長崎大学学術研究成果リポジトリへの許諾につき、本人の意向を尊重し、許可することになった。
4. その他  
本学会会則のうち特に理事選挙に係る部分の改正案の進展状況、ICoME2008 の準備状況、第1回研究会開催結果の報告が行われた。

#### ◆ 編集委員会からのお知らせ ◆

##### (1) 機関誌『教育メディア研究』への投稿原稿募集

前号の学会通信でもお知らせいたしましたが、『教育メディア研究』第15巻1号の原稿を募集中です。投稿方法は下記に従ってください。

なお、投稿に際しては、投稿規程（学会誌の表紙裏、または学会ホームページに掲載）を熟読し、とくに投稿論文の種別に応じて字数制限をお守りください。また、査読や入稿を円滑に進めるために、英文要約と英語のキーワード表記についても、ネイティブチェックを行うなど、十分にご配慮ください。原稿の締め切りを6月上旬までといたしますが、すでにご案内のように、本巻号に限らず、原稿は常時受け付けております。

##### (2) 特集論文「授業とメディア」の原稿募集

編集委員会にて、第15巻2号に掲載予定の特集論文のテーマは「授業とメディア」に決まりました。

この「特集」原稿締め切りの目安は、本年(2008年)10月末日を予定しております。

多くの原稿をお待ちしております。

なお、表記の方法など詳細は投稿規定（学会誌の表紙裏、または学会ホームページに掲載）をご覧ください。また、査読や入稿を円滑に進めるために、英文要約と英語のキーワード表記についても、ネイティブチェックを行うなど、十分にご配慮ください。

字数制限は、図表を含み5000字ないし6000字です。

#### 記

投稿に際しては、次の書類等を下記「投稿先住所」まで簡易書留でご送付ください。

・必要事項をすべて記入済みの投稿票（投稿票は学会ホームページからダウンロードできます）

- ・投稿原稿を4部（原本1部とそのコピーを3部）
- ・原本が収められた記録媒体（フロッピーやCD-ROMなど）
- ・（封筒の表に「投稿原稿在中」と朱筆する）

■投稿先住所■ 184-8501 小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学教育学研究室内  
日本教育メディア学会事務局内「学会誌編集委員会」宛

#### ◆ ICoME2008 (International Conference of Media in Education 2008) ◆

##### 国際会議のお知らせ

第6回教育メディア国際会議を韓国教育情報メディア学会と日本教育メディア学会の共催で開催いたします。この国際会議は、学会員だけでなく、非会員も参加することが出来ます。また、大学院生、学部生の発表のためにラウンドテーブルも用意されています。

一般発表の発表時間は30分程度で、論文は英文で提出し、英語での発表になります。また、一般発表の中で優秀な論文は推薦を受け、加筆修正を行った後、査読にパスすれば国際ジャーナル(International Journal for Educational Media and Technology)に掲載されます。またこのジャーナルは、オンラインジャーナルとしてウェブ上にアップされます。

国際会議では基調講演も予定しており、海外の著名な研究者を招待する予定です。

昨年度は、韓国・釜山で開催され、APEC の情報教育の会議と同時に行い、日本から 80 名、韓国のほか、インドネシア、マレーシア、タイ、メキシコなど総勢で 400 名ほどの参加者がありました。

本年度の予定は以下の通りですが、発表数が多い場合は、8 月 25, 26 日の二日間になる可能性もあります。また、8 月 27 日は、立命館高校を見学し、その後京都の見学を行う予定です。

#### 国際会議までの予定

- 一般発表申し込み締め切り 2008 年 4 月末  
氏名、連絡先、アブストラクトの提出
- 原稿提出締め切り及び原稿枚数  
提出締め切り 2008 年 6 月末  
原稿枚数 一般発表 6 から 8 枚まで、8 枚を超えないこと。  
規定枚数を超えた場合は受け付けない。  
ラウンドテーブル 2 から 4 枚まで。
- 開催場所 関西大学高槻キャンパス  
8 月 25, 26 日 一般発表、ラウンドテーブル 9 時から 6 時まで  
懇親会 6 時から 8 時まで  
8 月 27 日 見学ツアー 立命館大学附属高校、および京都見学  
学生の宿泊のために、キャンパス内にあるセミナーハウスを利用することが出来ます  
(宿泊のみ 1600 円)。

なお、予定が変更になる場合もあり、最新の情報は、本学会ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaems/>) をご覧ください。

### 【会員情報】

#### 新入会員

<正会員> 高橋雄一 (聖徳大学大学院) 二田貴広 (奈良女子大学附属中等教育学校)  
小田光康 (東京大学大学院) 小林晃子 (練馬区立関町小学校)  
酒井和行 (江戸川大学)

<購読会員> 東京福祉大学附属茶屋四郎次郎記念図書館

#### 退会者

秋山賢治 内田英穂 大西好宣 乙政潤 石川達朗 香川順子 川合治男  
清川英男 佐伯知美 上越教育大学学術情報課 高橋悦子 姫野完治  
(株)トーハン海外営業グループ

正会員 301 名 学生会員 40 名 団体会員 7 団体 購読会員 9 団体  
会員総数 357 名・団体 (平成 20 年 5 月 21 日現在)

#### 日本教育メディア学会 事務局

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学教育学研究室内

電話 042-329-7344

学会ホームページ URL <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaems/>

E-メール [shijaems@u-gakugei.ac.jp](mailto:shijaems@u-gakugei.ac.jp)

郵便振替口座 00130-4-103021

■本年度等学会費未納の方は、上記郵便振替口座にお振込みくださいますよう、お願いします ■